

# 授業参観はこんな視点で

都留市立都留第一中学校PTA

## 1 3つの役割 ～ 学校と先生を知る場

授業参観は三つの役割があると云われています。

一つ目は、我が子の成長を感じ、学校教育に関心をもつということ。

二つ目は、担任の先生と信頼関係を深めるということ。子どもは学校だけ、家庭だけで育てるものではなく、学校と家庭の双方が力を合わせて育てるものだと思います。皆さんは、「どんな先生がどんなふうに分の子どもを指導しているのか」に注目しますが、先生も「授業を通して、自分という人間を保護者に知ってもらいたい」と思って授業を行っています。

三つ目は、保護者同士の親睦を深めるということ。

## 2 自分の子ども、周りの子どもを見るときのポイント

授業参観では、我が子のよいところをたくさん見つけてください。「挙手して発言しているかどうか」は勿論のこと、手を挙げていなくても、先生の問いかけに対して、うなずくなどして理解している様子があれば、それもOKです。そのほか、板書をノートに写せているか、正しい姿勢で座れているか、集中して聞いているかといった視点も必要です。また、授業を行う先生も授業の始めに「今日の授業のねらい」を示し、終わりには「授業のねらいに沿ったまとめ」をします。従って、以前より、ご家庭でお子さんと話がしやすくなっています。

また、クラスの様子も見てください。50分の授業で、よく発表する子、元気な子、おとなしい子…様々な個性を持ったお子さんがいることが分かりますと思います。例えば、我が子が「Aさんが嫌なことを言った」と聞いた時、Aさんの様子を知らないで「うちの子はいじめられている」と早合点してしまう可能性があります。しかし、授業参観でAさんの様子を知っていれば、悪意のある嫌がらせではなく、むしろ好意を持っている場合もあり、少し様子をみようとして冷静になれます。

## 3 授業をする先生を見るポイント

先生は、ふだんの授業は勿論ですが、授業参観でも準備に時間をかけ、どの子どもも輝けるように意識して授業をしています。その一端を述べますと、

- ・ 授業の始めに今日の授業の「ねらい(めあて)」を示し、
- ・ 教材を活用し工夫し、
- ・ 指名する時は多くの子どもにあて、
- ・ 授業の終わりに「振り返り(まとめ)」を行っています。このような視点で参観して欲しいです。



## 4 掲示物にも注目

掲示物にも注目してください。学級目標、今日の目標、学級の係など、学級経営に関するものが掲示してあります。これらをご覧になると、「どのようなクラスにしたいのか」先生の方針が分かります。また、クラスの活動の様子が見えてきます。

## 5 授業参観後は

授業参観を見て終わりではなく、お子さんと話をしてください。このことで、学びへの意欲がグッと伸びすことができます。

まずは、よかったところをほめて。ときとして、我が子の言動で気になることを見つけるかもしれませんが。それらを注意するよりも先に、ほめてください。その際、気をつけたいことは、「Bさんより発言していたね」などと人と比較しないということです。何故なら、周囲の人の順位ばかりを気にするようになり、失敗を避けたり、1番以外は駄目だという思考になったりしてしまうからです。

比較するのであれば、過去の子ども自身が良いでしょう。「去年の授業参観より集中していたね」「今年は声がおおきかったね」などと成長が分かるように具体的にほめてください。

気になることを見つけた場合は、まずは理由を聞いてください。例えば、分かっていたけど発言しなかったのであれば、「保護者がたいくさんいて緊張していたんだね」と我が子の気持ちを受け止めてください。その上で、「ノートにはきちんと答えが書いてあったね」「Cさんの発言をよい姿勢で聞いていたね」などと違う視点からよいところをほめて、自信を持たせてください。自信をつけることで、「復習でもしよかな」と子どもは思い始めます。

大切なのは、授業中間違えたとしても、失敗を責めないということです。先生は「間違いを恐れずに自分の考えを言おう」と授業を進めています。誰かが間違ったことは、クラスで共有しみんなで理解できればいいのです。

また、「今日の授業の先生は、こんなによいところがあったね」と先生のよかったところもほめてください。例えば、我が子が「D先生は宿題が多くて嫌だ」と言ったとします。そんなときは、我が子の気持ちを理解しつつも「D先生はそれだけ熱心なのよ」と諭してください。そうすれば、先生とお子さんの信頼関係はさらに深まり、悩みが生じた場合は「先生にも相談しよう」となるのではないのでしょうか。

## 6 人間、欠点はすばやく見抜くが…

今まで、「ほめてください」「自信を持たせてください」「失敗を責めないでください」とお願いしてきましたが、そう容易くできるものではありません。人間は欠点を素早く見抜く習性があるようです。しかし、誰も欠点があり簡単に直りません。そのため、先生は人間観察のトレーニングを受けているそうです。我々保護者も意識して、欠点より長所を探すトレーニングをやってみては如何でしょうか。例えば、「落ち着きがない子は興味がいっぱいある子」、「よく泣く子は感受性豊かな子」、「すぐ怒る子は正義感が強い子」、「困った子は困っている子」、「やろうとしないはやり方が分からない子」、「ふざける子はできないことを隠したい子」、「じゃまをする子は自分だけできないのは嫌だと思う子」というふう。きっと、会話が違ってくると思います。

都留一中の先生方は子どもたちの個性を伸長できるように、また集団生活で自分の力が発揮できるように指導・支援しています。我々保護者も学校に協力して育てていきましょう。

